

追悼：平山郁夫 名誉会長
「誓いと感謝を込めて」

当機構創立の当初からご指導を頂いておりました、平山郁夫 名誉会長が平成21年12月2日に逝去されました。79歳でした。誠に残念なことであり、謹んで深い哀悼の意を表します。

5年前に当機構が誕生しましたが、その船出には確かな舵取りと大きな推進力が必要でした。その多くを平山先生の信念と情熱によって支えられ、共に歩んでこられたことが、何にもまして恵まれたことであつたと感じております。

ここに、当機構「創立総会記念パーティー」(平成17年12月12日 赤坂プリンスホテル)における平山先生のご挨拶を再掲いたしまして、ご冥福をお祈りいたしますとともに、感謝と御礼に代えさせていただきます。

数多くの作品のみならず、国境を越えてご尽力された文化や人々の交流への先生の思いは残された者たちに確実に息づいております。先生の当機構に対します思いを改めて思い起こし、今後一層努力していくことをお誓いいたしたいと思ひます。

創立記念パーティーでの挨拶
平山名誉会長

全日本社会貢献団体機構が創立されましたことを心からお祝いいたします。

数年前に、私はマニラでアジアのノーベル賞とも呼ばれる「マグサイサイ賞」という賞を頂きました。これは中国や中央アジアなどでの文化財保護や

相互理解活動という平和の推進に係わつての賞でしたが、これも遊技事業関係者の方々から、文化財や平和に関する問題にご熱心にご支援を頂いたがゆえに頂いたものです。

また、北朝鮮にあります高句麗古墳壁画の保存にも浄財をユネスコ連盟を通じ使わせて頂きました。ただいま6カ国会議(日米中露韓北)が厳しい状況にありますが、こと文化に関しては、私は朝鮮民主主義人民共和国の人々は大変喜んでおり、時間を掛ければ必ず平和裏に理解が進み、ソフトランディングするものと確信しております。

高句麗古墳壁画は、奈良県明日香の高松塚古墳壁画と大変共通点があり、しかもその傍にある日本で一番古い飛鳥寺は高句麗の僧が開いたもので、全員日本に帰化されております。寺には丈六のブロンズの仏像がわずかに焼け残り現存しますが、当時高句麗王から大和政権の推古天皇に金300両が贈られ、これを基に、この仏像に金メッキを施したことが日本書紀にも書かれております。

ここに見られるように、かつての日本は遣唐使を初めとする中国はもとより、百済、新羅、高句麗等の朝鮮半島からも多くのことを学んできました。そうした歴史も踏まえ、高句麗古墳の保存事業がこの遊技事業組合のご支援で着々と進んでおりますが、このような協力が進めば時間は掛かるでしょうが、この東アジアで必ず平和が来ることを私は確信しております。

このほか医療や福祉ですとか、さまざまな面にも、この団体が浄財を寄付し、役立たせていることを良く承知しておりまして、そのことに深く感謝し敬意を払います。この度の「全日本社会貢献団体機構」の設立にのぞみ、これからますます文化面はもとより人道的な福祉面でも社会貢献がいつそう実ることを希望いたしますし、期待をいたしております。

